

建築計画・小テスト1（人間をとらえる）

番号 _____ 氏名 _____

1. 人は皆、 _____ で _____ な生活を営む権利を持っている。（憲法第 25 条より）
2. このユニバーサルデザインの出発点は、デンマークのバンクーミケルセンが提唱した「 _____ 」という考え方である。
3. 障害者の立場をより尊重し、(ICF、2001 年) 機能障害 (impairment)、 _____ 、参加 (Participation) に分類し、障害があることを問題とするのではなく、それを生じさせている状況や環境を問題とする観点をより明確にした。
4. 「リハビリテーション」である。リハビリテーションのそもそもの意味は、「再び (re)」、「 _____ 」である。
5. _____ 、 _____ 、高齢者、視覚障害者と聴覚障害者など様々な利用者をはじめから念頭においた設計を「ユニバーサルデザイン」という。
6. 食事・入浴・移動などの _____ や調理・洗濯・買い物などの _____ だけでなく、習い事・外食・散歩などの社会的活動に対してユニバーサルデザインが広まると様々な人の色々な活動が生まれる居住福祉環境が実現していく。
7. 身体能力が低下すると生活能力が低下すると思われがちであるが、生活環境を工夫することで、それまでの生活が継続できるようになる。これを _____ という。
8. 姿勢の種類は、分類の仕方によって変わるが、一般的には「立位」、「椅子座」、「平座位」、「 _____ 」の4つがある。
9. 作業には勉強や食事などで、背もたれの角度を小さくし 100 度ぐらいに立てて行い。いすに座って休憩するときは、角度を大きくし _____ 度に寝かせると休憩姿勢になる。
10. 生活空間にある家具や道具の使いやすさを「 _____ 」という。
11. 人間が一定の場所にあつて身体各部を動かしたとき、そこに平面的、または立体的にある領域の空間がつけられる。これが _____ である。
12. このアクセシビリティは、移動能力と移動方法と _____ の関係から決まる。
13. 車いすが通れる高さが _____ cm 以下の低い段差であれば、そのまま通行可能である
14. 高齢者の場合個人差はあるが、段差が _____ cm 以上になると手すりなどの補助がないとあがれなくなる
15. 一般的には 1/12 以下が目安になっているが、高齢者や体の不自由な人が独力でこの勾配をあがるのは無理で、自由な活動ができるためには、 _____ 以下が必要である
16. ユニバーサル空間を整備しなければならない。それには3つの条件がある。①誰にでも目的場所までバリアがなく行けること。② _____ があり、回遊性があること。③誰にでも分かりやすく安全であること。
17. 障害者や高齢者など体の不自由な人々が自然とのふれあいがしやすいように、工夫がされた _____ が整備され始めている。
18. 2006 年「バリアフリー新法」は、不特定多数の人が利用する公的な施設でも、障害者に配慮した環境整備を促す法律で、出入り口・廊下・階段・スロープ・エレベータ・ _____ を重要な改善項目にあげている。
19. 障害者や高齢者にとっては、外出先までの経路上に利用可能な _____ があるかないかが、外出意欲に大きく左右するといわれている。
20. 人間は環境から様々な刺激（圧力）に対して適応する能力を身に付けている。これをロートン「 _____ 」と定義した。環境からの刺激が強すぎると、混乱や事故を引き起こすが、適度な刺激があると、生産性が上がり、達成感さらには幸福感にもつながる。